

◆ 多摩小平保健所 栄養・食生活ネットワーク会議を開催

～今年度の取組状況や会議での作成資材について情報交換を行いました～

9月18日(木曜日)、多摩小平保健所では、「東京都多摩小平保健所栄養・食生活ネットワーク会議」を開催しました。本会議は、北多摩北部保健医療圏地域保健医療推進プラン※(以下「プラン」という。)で掲げる重点目標「生涯にわたる食を通じた健康づくりの充実」を目的に、年2回開催しています。当日は、座長に女子栄養大学の^{はやし} ^{ふみ}林 芙美教授をお招きし、圏域5市の保健衛生主管課、学務主管課、保育主管課、産業振興主管課、関係団体から20名の参加がありました。

今年度第1回目の開催となる今回は、現行プランでの推進体制について確認を行った上で、各市、関係団体、保健所の「食を通じた健康づくり」の取組状況を共有しました。保健所からは、9月の食生活改善普及運動の取り組みとして、昨年度の会議で提案があった管内J A直売所での啓発等に取り組んだこと及び圏域で連携して取り組んでいる6月の食育月間の取組状況について報告しました。各市や関係団体からは、今年度重視している「無関心層への働きかけ」の工夫として、イベントの待ち時間を活用した啓発や、期日前投票所、コンビニエンスストアでの啓発の事例のほか、デジタルツールを活用した食育事例等を報告いただき、プランの目標達成に向けたより実効性をもつ取り組みについて意見を出し合いました。

続いて保健所から、今年度の取り組みの一つとして、会議で作成予定の野菜摂取を普及啓発するポスターとチラシの案を提示し、内容や啓発方法等について検討しました。地域で採れる野菜の購入が食べるきっかけとなるよう、生産者へのインタビューを通じて地域のつながりも伝えていく認識を共有しました。今後は意見をまとめ、来年度の普及に向けて本会議で作成を進める予定です。

当保健所では、本会議でいただいた意見をもとに健康づくりの取り組みを検討し、今後も各市・関係団体等と連携しながら、都民の「生涯にわたる食を通じた健康づくりの充実」を推進していきます。



会議の様子

◆ 「高齢者施設における疥癬^{かいせん}対策について」講演会を開催しました

10月6日（月曜日）、多摩小平保健所では、「高齢者施設における疥癬^{かいせん}対策について」講演会を開催しました。本講演会は、高齢者施設職員が平時から疥癬の病態や治療を正しく理解し、早期発見に向けて適切な感染予防策を取りながら高齢者と関わるができるようになることを目的とし、管内20施設33名の参加がありました。

はじめに、当所職員より、過去に高齢者施設で対応が長期化した疥癬集団発生事例を紹介しました。その後、講師の東京品川病院医師 牧上(まきがみ)久仁子氏より「疥癬対策は怖くない」をテーマにご講演いただきました。ヒトヒゼンダニの生態をもとに、発疹やかゆみの症状はアレルギー反応であること、潜伏期間が長いこと等、疥癬の病態や診断の難しさについてもお話しいただきました。疥癬と診断されると、施設内で隔離などの過剰な感染対策が取られる傾向にありますが、診断された場合の対応や治療についても説明をいただいたことで、施設での対策を見直すきっかけとなったようです。

参加者からのアンケートでは、「疥癬対策は長期戦。不必要に警戒して対策をしすぎないようにしたい。」、「早めの診断、薬の投与であまり過剰な対策になりすぎないようにしたい。」、「疥癬対策マニュアルの見直しや勉強会を行いたい。」との声が寄せられました。

当所では、今後も様々な事業を通じて保健所管内の感染症対策の強化を図っていきます。

※1 疥癬とは、ヒトヒゼンダニによる皮膚感染症で、発疹やかゆみなどの症状を呈する疾患です。病院や高齢者施設等で集団感染が発生しています。



講演会の様子

◆ 市町村支援研修（災害対策編）を開催しました

11月13日（木曜日）、多摩小平保健所では、令和7年度北多摩北部保健医療圏市町村支援研修（災害対策編）「イメージしよう！発災時、なにが起こる？～市民の健康を守るために、必要なこと～」を開催しました。本研修は、市職員が発災発生時に円滑な保健活動を実施できる体制を構築することを目的に、北多摩北部圏域5市の健康主管課、防災主管課及び災害時に避難所を所管する部署の職員等を対象に集合形式で実施し、計23名の参加がありました。

はじめに、保健所から、「災害対応における圏域の現状と課題」をテーマに、圏域の状況・災害時の被害想定や災害時保健活動における課題等について説明を行いました。

続いて、HUG^{*}を活用したグループワークを行い、要配慮者の部屋割りや仮設トイレの設置といった避難所で起こる様々な出来事への対応について、活発な意見交換が行われました。グループワーク後には、保健所から、要配慮者やペット等への対応に迷った項目について、都及び圏域各市の地域防災計画における対応方針等を紹介しました。

最後に、草深(くさぶか)地域保健推進担当課長から、「被災地派遣の体験から 一人と組織の連携力」をテーマに、能登半島地震の被災地派遣の体験を共有するとともに、災害時の保健師の役割や職種・組織を超えた連携の必要性等について講義を行いました。

参加者からは、「避難者の来訪が続き、課題が相次ぐなど慌ただしい状況で、迅速な判断が求められることを痛感しました。」「多くの被災者の安全を守るために、職種や組織を超えて連携し、専門職は専門性を発揮することが大切だと気付きました。」「他の部署や職種の方々と対面で知識を持ち寄り、意見交換しながらゲームに取り組めたことがとても参考になりました。」といった感想が寄せられました。

当保健所では、引き続き圏域各市と連携し、災害時の保健活動体制整備に取り組んでいきます。

※ 「H (hinanjo 避難所)」、「U (unei 運営)」、「G (game ゲーム)」避難所運営ゲーム。避難者の属性が書かれたカードを適切に配置し、避難所で起こる出来事に対応する体験型ゲームです。避難所運営者として意見交換しながら災害対応を学ぶことができます。



研修の様子

◆ 多摩小平保健所で新興感染症発生時対応訓練を実施しました

12月11日（木曜日）、多摩小平保健所は、公立昭和病院、多摩北部医療センター及び小平市医師会と連携し、新興感染症発生時対応訓練を実施しました。当日は、医療機関、医師会、圏域市等、計24名の方に参加いただきました。

本訓練は、新興感染症発生時における発生段階ごとの対応について、平時から共通認識を持つことで圏域の健康危機管理対応力を高めること、新興感染症等発生時におけるリスクコミュニケーションや情報発信のあり方について理解を深めることを目的とし、以下の内容で実施しました。

【講義①】感染症危機管理とリスクコミュニケーション（講師：大東文化大学スポーツ・健康科学部 健康科学科教授、東京iCDC疫学・公衆衛生チーム チームリーダー ^{なかしま} ^{かずとし} 中島 一敏氏）

【講義②】感染症と個人情報管理（講師：多摩小平保健所保健対策課長 ^{くはた} ^{ゆうこ} 桑波田 悠子）

【訓練①】図上訓練：対応期（B～C-1）における対応確認

【訓練②】課題提示によるディスカッション

また、講義①～訓練①については、公立昭和病院及び多摩北部医療センター主催の感染対策向上加算カンファレンス訓練との合同開催としてオンラインで配信し、45機関計97名の方に視聴いただきました。

講義①では、COVID-19発生当時の状況やリスクコミュニケーションの基礎知識、感染症危機におけるリスクガバナンスについて講義いただきました。

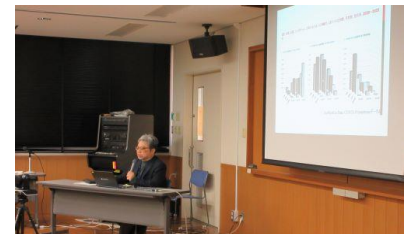
講義②では、事例に結核を挙げ、参加者が学校教員となった想定で、情報発信を行う際の留意事項について考えました。

訓練①は、新型インフルエンザの発生段階に応じた対応について各機関のプレイヤーがシナリオを読み上げる形で実施しました。

その後の訓練②では、医療機関、医師会、市に分かれて、新興感染症発生時における情報発信・情報共有及び連携等についてグループディスカッションを実施し、どのグループも非常に活発な意見交換が行われていました。

訓練後のアンケートでは、「専門的知識をいかに正しく伝えるかが重要と考えていたが、相手の不安などに寄り添い対応することが大切だと学んだ。」「圏域の関係者と顔の見える関係を構築でき、今後の活動につながる。」「今後はさらに在宅療養、社会福祉施設等の対応を加えた訓練が実施できるとよい。」等の声が寄せられました。

当保健所では、今後も訓練の開催等を通じて、圏域の健康危機管理対応力の向上を図っていきます。



講義①の様子



講義②の様子



訓練①の様子



訓練②の様子